

石老山を登って

R . E

12月7日、ゼミのメンバーたちと一緒に石老山へ行ってきました。前回登った桜山の際は人数が10人くらいしかいなかったのですが、それに比べて今回の登山ではその3倍くらい多くの人数がそろいました。また、サポートが必要な方はそれぞれ1班、2班、3班に分かれたのですが、それぞれの班にだいたい2~3人くらいいたので、私たち立教生だけでなくアルプの方々もローテーションに加わってもらいました。今回は清掃登山と弱視の方々のサポートをやると思っていたので、サポートしながらゴミ拾いはちょっとハードになりそうだなと思っていたのですが、ゴミはほとんど見当たらなかったため、サポートの方に集中することができました。今回サポートさせていただいた方は男性と女性の方それぞれ一人ずつで、どちらの方もユニークで面白い方々でした。しかし肝心のサポートの方がなかなか上手く出来ず、さらにはコースもかなり険しかったので、前回の桜山とのギャップが激しかったです。前回はただ後ろについてもらっているだけだったのですが、今回は本格的にサポートする感じがしました。ランクがBということでしたが、ほかのBランクの山もこんなにきついものなのかと思うほど険しかったです。石老山はその名の通り岩石がたくさんあり、石や土が雨や雷などの自然現象で削れて道になっているところが多く、石の道も土の道も足が取られやすくサポートどころじゃありませんでした。私はちなみに4回転びそうになりました。とにかく段差が激しくて、行きも帰りも登って降りてを繰り返し、休み休み登ったものの頂上につくころにはみんな疲れた顔をしていました。そんな中頂上でも元気に遊んでいたのはふたりの11歳の女の子で、彼女らは終始ずっと先頭を歩き休憩のときでも網干さんと戯れていたりととても元気で驚きました。私たちがちょうどそのころだったとしてもあそこまで元気に登山することは出来ないと思います。しかし何よりすごいのはふたりとも親と同伴ではなく個人で参加しているということです。私が11歳のころ、ひとりで電車なんて乗れたのだろうか。そういった面でもたいしたものだと感心しました。あとその他のアルプの方々もみな私たちの親より年上くらいなのにもかかわらず、すいすいと歩いていく印象が強く、これもまた驚きました。

今回石老山を登ってみて、改めて山登りのつらさを感じたと同時に自然の偉大さを感じました。本来人が通らないような自然現象が作り出した道を歩いたとき、まるで人間が通るためにできているような場所がありました。それが私の単なる勘違いであったとしても、私は自然が私たちのために道を作ってくれた、そういうように信じていたいのです。私たちが疲れたときでも壮大な景色と鮮やかな紅葉などで癒してくれる。それもまた自然が与えてくれたものとして感じ、私たちはこの自然に敬意を抱いて日々の生活をしていこうと思いました。